

西伊予出身!

Interview with
Human in season

今旬の人

待望の単行本化も果たした 新進4コマ漫画家

富永ゆかりさん

今や日本を代表する文化のひとつとも言われる漫画。中でも「4コマ漫画」は近年人気が高く、専門誌の出版も増加しています。大洲市出身の富永ゆかりさんは、そんな4コマ漫画誌に連載を持つ新進漫画家。昨年は念願の単行本化も果たした富永さんに、デビューまでの経緯や近況、ふるさとへの思いなどをお聞きしました。

幼い頃から漫画に夢中だったそうです。

物 心ついた時には家に「サザエさん」や「いじわるばあさん」「三丁目の夕日」といった漫画があって、弟たちと一緒に読むのが大きな楽しみでした。特に夢中になったのは「ドラえもん」で、台詞を覚えるほど何度も繰り返し読みました。こうした作品の影響からか私には、年齢を問わず楽しめる、シンプルでわかりやすい絵柄の漫画を好む傾向があったようです。

そのうち「将来は漫画家になりたい」と思うようになり、見様見まねで方眼ノートに漫画を描きためていました。中学一年の時からストーリー漫画を投稿するようになりましたが、年に一回程度のかかり遅いペースでした。そんな中、高校一年の時に初めて描いた四コマ作品が少女漫画誌に掲載され、三年時には「まんがホーム」という四コマ漫画誌の女流新人まんが賞に入選し、掲載されました。

ところが大学在学中は漫画執筆を中断したとか。何か心境の変化があったんですか。

大学時代は教職を目指し、勉強を進めていました。そのために漫画を描くのを中断したわけではなく、時間の自由があり、「いつでも描ける」と油断してしまっただけで、かえって「描かない」状況を作り上げてしまった四年間でした。

大学卒業後は団体職員として勤務していましたが、職場に写真や絵画、俳句、書道といった趣味や特技を持つ方がたくさんいらっしゃったので、たいへん刺激を受けました。そこで私も何かやることを考えた時、頭に浮かんだのが漫画。東京に行った際に出版社に原稿を持ち込みましたのがきっかけ

では近況を教えてください。

現 在は「かなりの*ハッピー」と「すてきなムコさま」の毎月連載が仕事のメイン。雑誌発売の約一カ月前が締切日で、一日に二ページ程度を仕上げるのが私には無理のないペースです。独身時代はかなり不規則な毎日を送っていましたが、結婚後はサラリーマンの夫の影響でなるべく規則正しい生活を心がけています。

私は、自分の体験全てが作品に反映されると思っています。もちろん、漫画家になるまでの紆余曲折も貴重な経験ですし、最近では自動車運転免許取得の合宿に参加したことも勉強になりました。運転の方は数カ月で不向きと自覚して、購入した車は



「執筆は時間がかかる方」と語る富永さん。自宅の職場にて

今後はどんな作品に取り組みたいですか。

故郷の大洲で走っていますが(笑)、講習を通して悔しかったり落ち込んだり、思いがけず仕事上のヒントを得たりと密度の濃い日々でした。今後物事に先入観を持たず、何にでも挑戦して、貪欲に漫画のヒントを模索し続けるつもりです。

このところ、私の作品は一本一本が完結する形の漫画なんです。中には一話ずつオチをつけながら、さらにストーリー展開していくという作品もあります。いずれはその手法で描いてみたいですね。四コマ漫画誌は、現在発行されているだけで毎月約三十種類。最近は対象読者やテーマを絞るなど細分化される傾向があり、種類もどんどん増えています。そんな中でこだわっている部分と捨てる部分を見極め、変化をしながら、最終的には「自分しか描けない作品」づくりを目指したいと思っています。



で、少しずつ作品が掲載されるようになると、再び「漫画家になりたい」という思いが強くなりました。

上京を決意してから、現在に至るまでの経緯をお聞かせください。

私 は一度に複数のことができない性格なので、悩んだ末に漫画の道一本と決めました。上京したのは、出版社のある東京が打ち合わせや取材、原稿の受け渡しなどの際に都合が良いのと、描く環境を整えたかったところにありました。

上京してからは学習塾の契約社員として働きながらチャンスをつかみ、一年半後に「クレヨンしんちゃん特集号」という漫画誌で、私の〇〇四コマ漫画「かなり*ハッピー」の連載が始まりました。これはお陰様で現在も連載が続いています。また、四年前には漫画専門学校に通い、プロの先生方のハイレベルな仕事ぶりを目の当たりにしながら技術習得に励んでいましたが、そ

富永さんにとってふるさととはどんな存在ですか。



十 八年間を過ごした大洲には、土手でのそり遊びや夏休みの脇川で習った神伝流泳法、弁当持参で友達としょっちゅう登った富士山など、思い出がいっぱいです。自然に囲まれて遊び、学び、美味しい水やお米、野菜を食べる暮らしが、大洲を離れた今となってはとても贅沢だったと思えます。

年に二回の帰省では、復元された大洲城を見るのが一番の楽しみ。久しぶりの故郷の味もしっかり堪能するので、帰る時は必ず太ってしまいます(笑)。また近所を歩けば、子どもの頃にお世話になった方々や友人と再会できる。とにかくふるさととは、どこより温かく、ほっとできる場所です。

最後に西伊予の皆さんへメッセージを。

単 行本刊行に際して、西伊予の皆さんには本当にお世話になりました。郷土出身者ということでも本を平積みしに宣伝してくださった書店様、それを買ってくださった読者の方々、色紙や本を飾って応援してくださったお店の方々など、その温かいお心遣いには深く感謝しています。今後よりよい作品作りに邁進しますので、応援のほどよろしくお願いたします。

また、私の作品をご存知ない方も、連載中の漫画誌は子どもからお年寄りの方まで楽しく読めるものなので、ぜひ一度手に取ってご覧になってみてください。

の最中に「まんがタウン・オリジナル」で新たに「すてきなムコさま」の連載が決定。この作品は、出版社担当者からの「嫁姑問題ならぬ『婿舅問題』をテーマにしたらどうか」という提案がきっかけでした。

最 その「すてきなムコさま」が大好評で、昨年末には単行本化もされました。

初はすごく面白いテーマだと思ったんですが、ただ私の周囲にはそのモデルとなる婿養子も舅もない。自分の知らない世界を描くのは、実は大変なプレッシャーでした。それだけに、参考になりそうなビデオや本などの資料を探したり、友人知人に話を聞いて回ったりして必死に取り組んだ作品が、連載開始から一年ほど経って単行本化の話をお願いした時は、本当にうれしかった。特に主婦の支持が多いと聞いて感激したのを覚えています。というのも、その頃私自身も新米主婦で、家事全般の勉強をしながらの連載だったため、家庭を切り盛りする女性から「面白い」「共感できる」という評価をいただいたことは、大きな自信につながりました。



「すてきなムコさま」(双葉社)。婿舅問題を明るくほのぼのと描いた本作は、現在も好評連載中

とみなが・ゆかりさん

昭和四十六年生まれ。愛媛県大洲市出身。幼い頃から漫画家を目指して投稿を続け、高校三年の時「まんがホーム」女流新人まんが賞入選を果たす。愛媛大学教育学部卒業後、団体職員勤務を経て、平成十一年に上京。その一年半後、「クレヨンしんちゃん特集号(現まんがタウン)」にて四コマ漫画「かなり*ハッピー」連載で本格デビュー。平成十四年、「まんがタウン・オリジナル」にて新連載「すてきなムコさま」を開始。昨年十二月には待望の単行本「すてきなムコさま①」を発売。



★読者プレゼント

富永ゆかり先生の「すてきなムコさま」(サイン入り)を抽選で20名様にプレゼントします。官製はがきに住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、下記までご応募ください。
【宛先】〒795-8601 大洲市大洲 690-1
八幡浜・大洲地区広域市町村圏組合「読者プレゼント」係
【締切】平成17年10月14日(金)当日消印有効